

なら

植防ニュース

平成31年度 農薬安全使用研修会

7月26日に奈良県農業研究開発センター交流・サロン棟で農薬安全使用研修会が催され、約100名が参加した。

始めに（公社）緑の安全推進協会の今瀧博文氏が「農薬の使用者が気をつけること」について講演された。

農薬の使用に伴う事故、特に死亡事故は注意喚起により減少傾向にはあるが、無くなってはいない。事故の主な原因は、マスクやメガネ、服装等の保護具装備不十分や保管管理不良や泥酔等による誤飲誤食である。農薬の調整・散布時は保護具を着用し、誤飲誤食につながる、ペットボトル等への小分けをしないことが重要である。

農薬取締法の改正（平成30年12月1日施行）に伴う適正使用上の注意点として、農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令内の努力義務に、使用上の注意事項を守ることや適用表に無い病虫害雑草に使用しないことが明記された。また、農薬取締法施行規則（第十四条第2項四号）の一部改正により、複数回収穫の際に、農薬の総使用回数の数え方において、一部見直しがなされたので確認が必要である。

一般社団法人奈良県植物防疫協会

〒633-0046 桜井市池之内130-1
奈良県農業研究開発センター内
TEL:0744(47)4861
FAX:0744(47)4862(専用)

目 次

◎農薬安全使用研修会	1
◎日本植物防疫協会シンポジウム	2
◎促成イチゴにおける カブリダニ製剤利用のポイント	3
◎登録失効になった農薬 (FAMICの失効農薬情報より)	4

最後に（株）重松製作所の安藤眞理氏より「農薬用保護マスクの正しい使い方」について講演があった。先の講演でも述べられたように、保護具の装備不十分が、農薬事故の原因となっている。特に口や鼻から農薬を吸い込むと、直接人体に吸収されるため、毒性が強く作用してしまう。さらに、農薬散布作業は重労働のため、呼吸量も平常の数倍になり吸入量も多くなる。このため、農薬による被害を防ぐため、性能の良い散布薬剤に合った農薬散布用マスクを正しく着用しなければならない。



適切なマスクの装着指導

日本植物防疫協会シンポジウム 植物防疫の新たな展開の「その後」をフォローする

9月20日に日本教育会館一ツ橋ホールでシンポジウムが開催された。開会に先立ち、早川理事長から、当協会では、今後大きく動き出そうとする重要課題を取り上げ、シンポジウムを開催してきた。今回は、これまでの重要課題がこの数年でどう発展しているか、その後の動向について話題提供して頂き、更なる今後の展開や課題について考えて頂けたらとの挨拶があった。6課題の内、3課題を紹介する。

●薬剤抵抗性対策をめぐるその後

JFRACの田辺氏が、国内外の殺菌剤耐性菌管理の現状と対策について講演した。CLI（農薬工業会の国際組織）の技術部会であるFRACでは殺菌剤・病原・栽培の各リスクを複合的に判断し、耐性リスクを評価している。評価が高い殺菌剤は使用ガイドラインを作成している。日本では、農薬工業会内の組織であるJFRACが、使用ガイドラインや作用点により殺菌剤を分類したFRACコード表の国内版を作成し、情報発信を行っている。また、FRACコードを生産現場で活用するため、農薬工業会員に対して農薬ラベルへのRACコードの記載を促しており、記載した農薬が増えている。今後は、生産現場への使用ガイドラインやFRACコードを浸透させる方策が課題である。

●水稻高密度育苗技術をめぐるその後

（一社）日本植物防疫協会の舟木氏が、水稻高密度育苗における箱粒剤の適応性について報告した。高密度播種育苗での箱粒剤

の育苗箱施用では、苗当たりの薬量減少による薬効の低下が懸念されている。そこで、日植防の自主研究として、播種量と各施用法を組み合わせ稲体中の農薬濃度や防除効果を調査した。その結果、慣行の50g/箱施用では播種量の増加に伴い稲体中濃度は低下したが、防除効果は少発生や薬剤の活性が高い場合は低下しなかった。しかし、発生条件・地域・薬剤によって効果が減少し、残効低下の可能性もみられた。薬剤を100g/箱に増量した場合は、株当たりの薬量が標準の播種量と同等になるため、より安定した効果が得られた。

●新たな農薬登録制度をめぐるその後

日本農薬株式会社の元場氏より、農薬使用者及びミツバチ安全体策をめぐる国内外の現状と課題について報告があった。農薬取締法改正により、作業員暴露評価やハチ・鳥類リスク評価、評価水生生物種の追加が盛り込まれ、来年施行される。これらは国際基準との調和を図るため導入されたが、先に導入された欧米では原体や製品が激減している。作業員暴露評価では、使用回数・量が多いと、最大限の防護装備でも基準を超過する原体が出てくる。これらを登録するためには、市場性を考慮し使用法や適用作物の削除を行うか、莫大な費用の高次試験を行う必要があり、ハチのリスク評価でも経口・経皮で問題があった場合、莫大な費用のは場試験を行う必要がある。日本でも、経済的理由から原体登録数の減少が生じる懸念がある。

促成イチゴにおけるカブリダニ製剤利用のポイント

奈良県病虫害防除所 井村 岳男

近年、ナミハダニ黄緑型の殺虫剤抵抗性発達が全国的に問題となっており、促成イチゴでは化学農薬に変わる手段として天敵のカブリダニ製剤を利用した防除が基本技術として普及している。今作での天敵導入時期を間近に控え、カブリダニ製剤利用のポイントを簡単に解説したい。

①利用する天敵と放飼時期

イチゴのハダニ対策に利用するカブリダニ製剤は、ミヤコカブリダニ製剤とチリカブリダニ製剤である。初回の放飼適期はイチゴの開花始め～開花盛期であり、遅れると天敵の増殖が遅くなるので注意する。初回放飼時には両製剤を同時放飼する。その後、ハダニが再増殖した場合は、適宜チリカブリダニ製剤を追加放飼する。

②放飼前の注意事項

天敵製剤は発注してから到着まで1～2週間程度かかるので、計画的な発注と事前の栽培管理が必要である。天敵放飼後はしばらく葉かきと農薬散布を控えなければならないので、放飼前までに済ませておく。特に、ハダニ類については天

敵放飼前にできるだけ密度を低くしておく必要があるので、放飼前の薬剤防除が必須である。天敵製剤に影響の大きい化学農薬もあるので、放飼前の農薬散布は天敵への影響日数に注意する。

③天敵放飼時の注意事項

天敵は生き物なので、届いたその日のうちに放飼する。天敵は容器内の上の方に集まる習性があるので、放飼まで容器は立てずに横に寝かせておき、放飼時にはゆっくり回転させながら、葉上に少しずつ置くように放飼する。放飼後の容器とキャップには天敵が沢山残っているので、株元に数日寝かせておく。

④放飼後の注意事項

放飼後は天敵の定着を損なわないよう、農薬散布は1週間、葉かきは3週間控える。その後の農薬散布は、天敵に影響の小さい農薬を使用する。

⑤その他

ほ場内で対面作業する際に、ハダニの発生を見つけたら、洗濯ばさみなどでマークしておくのと、放飼時に重点放飼する場所が分かりやすい。また、放飼後の効果確認や追加防除の目安にもなる。

登録農薬失効情報 (2019.6.1~9.30) 農林水産消費安全技術センター(FAMIC)の登録農薬失効情報より抜粋

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名 (略称)	失効日 月/日/年
殺虫剤				
5050	M E P 乳剤	金鳥スミチオン乳剤	除虫菊	9/4/19
11192	貯穀用除虫菊剤	マルカ P G P	国際衛生	8/28/19
16370	M E P 粉剤	一農スミチオン粉剤 3 D L	第一農薬	7/25/19
20507	メタアルデヒド水和剤	F. G. マイキラー	富士グリーン	6/4/19
22678	C Y A P 水和剤	ホクサンサイアノックス水和剤	ホクサン	8/1/19
殺虫殺菌剤				
7276	石灰硫黄合剤	ヤナイ石灰硫黄合剤	柳井化学	9/17/19
除草剤				
20896	カフェンストロール・ダイムロン・ピラゾレート・ベンゾビシクロン粒剤	S D S イネエース 1 キロ粒剤	イステイ	6/25/19
21370	カフェンストロール・ベンスルフロメチル・ベンゾビシクロン水和剤	S D S テラガード L フロアブル	イステイ	6/25/19
21390	カフェンストロール・ベンスルフロメチル・ベンゾビシクロン剤	S D S テラガード L 2 5 0 グラム	イステイ	6/25/19
21417	カフェンストロール・ダイムロン・ベンスルフロメチル・ベンゾビシクロン水和剤	シロノック H フロアブル	テック・プロダクション	7/25/19
21420	カフェンストロール・ダイムロン・ベンスルフロメチル・ベンゾビシクロン水和剤	シロノック L フロアブル	テック・プロダクション	7/25/19
21442	カフェンストロール・ベンスルフロメチル・ベンゾビシクロン粒剤	テラガード 1 キロ粒剤 5 1	イステイ	6/25/19
21532	カフェンストロール・ダイムロン・ベンスルフロメチル・ベンゾビシクロン粒剤	シロノック L ジャンボ	テック・プロダクション	7/25/19
21541	カフェンストロール・ベンスルフロメチル・ベンゾビシクロン剤	S D S テラガード L ジャンボ	イステイ	6/25/19
21675	シハロホップブチル・ベンゾビシクロン・M C P B 粒剤	D A S カービー 1 キロ粒剤	ダウケミ	7/25/19
21756	イマズスルホン・カフェンストロール・ダイムロン・ベンゾビシクロン水和剤	テッテイフロアブル	イステイ	6/25/19
21780	カフェンストロール・ダイムロン・ベンスルフロメチル・ベンゾビシクロン粒剤	シロノック 1 キロ粒剤 7 5	テック・プロダクション	7/25/19
21798	カフェンストロール・ダイムロン・ベンスルフロメチル・ベンゾビシクロン粒剤	シロノック H ジャンボ	テック・プロダクション	7/25/19
22006	オキサジクロメホン・ベンスルフロメチル・ベンゾビシクロン水和剤	プラスワン L フロアブル	テック・プロダクション	7/25/19
23126	ピラゾレート・ベンゾビシクロン・ペントキサゾン粒剤	科研クサスイープ 1 キロ粒剤	科研製薬	8/21/19
23338	ピリミスルファン・ベンゾビシクロン剤	S D S ザンテツジャンボ	イステイ	6/25/19
23694	ブタクロール・ベンゾビシクロン・ベンゾフェナップ粒剤	S D S メルタス 1 キロ粒剤	イステイ	6/25/19
その他剤				
13594	展着剤	タマジェット	福栄産業	6/18/19
16057	ピーチフルア剤	シンクイコン	信越化学	8/6/19
17323	クロレラ抽出物液剤	グリーンエージ	加藤工業	7/8/19
23396	マシニッサルア剤	ヘタムシコン	信越化学	8/6/19